

平成 29 年度安心・安定経営支援事業 訪問看護ステーションサロン 報告

日 時：平成 29 年 7 月 11 日（火）18 時 30 分～20 時 30 分

場 所：徳島県看護会館

参加者：5 名 事務局 3 名

話題提供者：株式会社さよなき 訪問看護ステーションれんげ草 管理者 瀬尾勝彦氏

内 容：

徳島県訪問看護支援センター長より、今年度、訪問看護ステーションサロンを開催した経緯について説明後、瀬尾氏より話題提供があった。

瀬尾氏からは、昨年度経営相談時に上げた以下の 5 つの目標に沿って説明された。①事業所の基盤を構築する。②人員確保。③人材育成。④病院の看護と訪問看護の違いを知る。⑤事業所の『売り』をアピールする。

参加者は、自分たちの売りを徹底的に考え訪問看護事業を推進している瀬尾氏の熱い思いを共有し、質問もしながら意見交換を行った。予定していた時間を大幅に超過してしまったが、参加者自身が課題を持ち寄り有意義な時間を過ごすことができた。



【Q&A】

Q1：精神訪問看護では、訪問スタッフが変わると信頼関係を築くまでに時間がかかるが、どういう工夫をしているか。

A1：そのことについて困るのではないかと予想していたが、「時間をかけて話を聴く」という態度をスタッフ全員が全ての利用者に徹底しており、1～2回の訪問で信頼関係が築けている。スタッフの人柄も影響しているかもしれない。

Q2：1日の訪問件数はどれくらいか。

A2：1チーム（2人）で4～5件/日 多いときで7件/日訪問している。

精神訪問看護以外の訪問や遠距離でも断っていない。現在、東みよし町への訪問や穴吹町へ、週末も毎日、インシュリン注射のため訪問している。

Q3：訪問を減らそうとする利用者に対してどう対応すればよいか。

A3：訪問を減らしたい理由、状況により判断する。

急性期症状があり、関わって欲しくないというのであれば、いったん減らす。週1回の訪問も拒否するのであれば、月1回の訪問にするが、関係性が途切れると余計ストレスになるので、了解を得て週1回は安否確認のため様子を見に行く。

病状が回復したため減らすというのであれば、段階的（週1回→月2回→月1回→終了）に訪問を減らして外出を増やしていく。

Q4：2～3カ所のステーションで訪問するときは、訪問時間や訪問人数はどうするのか。

A4：最初に自分のステーションは2人で訪問し、1時間訪問をすると伝える。自分のステーションのポリシーを大事にし、他のステーションの批判はしないが合わせることもしない。

Q5：ひきこもり等で掃除が出来ていない家に訪問するとき、アレルギー症状が出るスタッフがいるがどうすればよいか。

A5：スタッフを変更するしかない。固定スタッフは1人で他の1人は変えていく。

利用者にスタッフが訪問しなくなった理由を聞かれたときは、「あなたの家のゴミがアレルギーをおこし湿疹が出ており、訪問出来なくなった。一緒に掃除をして誰でも訪問できる家にしよう」と説明して掃除するきっかけにする。ピンチをチャンスに変える。

Q6：管理者として自分自身が疲労感等を感じたとき、誰かに相談しているか。

A6：あまり休まずに働いていれば疲労するが、自分がスタッフより多く休むのは余計にストレスになる。後継者のことは今は考えていない。管理者の人脈を利用して自分のスタイルを作してほしい。

Q7：認知症で訪問看護を行っている方の妻が認知症状が進行してきたため、要介護認定を受け妻にも訪問看護に入るようになった。物忘れ外来受診時に、診察した医師が妻と息子に「認知症が進行しており家で暮らすのは無理だ」と言ったことで気分を害した。それ以降、妻は訪問看護を拒否していた。その後妻がやせて黄疸が出現したため受診、胆管が閉塞しており搬送された。どこまで介入すればよかったか。

A7：認知症の対応はデリケートな問題である。ストレートに言う医師もおり傷つく。ファーストアプローチは精神科の医師がいいのではないかな。

Q8：れんげ草の由来は

A8：花ことばで「苦痛を和らげる、共にいる」という意味である。

株式会社さよなきは「夜鳴鳥」と書き、「ナイチンゲール」という意味である。